

横浜医療情報専門学校

2023 年度学校関係者評価会議事録

日時	2023 年 8 月 29 日(火) 14 : 30~15 : 30	
場所	横浜医療情報専門学校 3 階 セミナー室 ならびに オンライン	
出席者	学校関係者評価委員	中村 ふじ 様 (Coach-F 代表)
		二宮 克行 様 (医療法人社団顕鐘会 神戸百年記念病院 理事・事務長)
		神崎 昭悟 様 (株式会社カケハシ)
		奈良谷 歩 様 (保護者代表)
	本校教職員	山上 紀彦 (教務部 部長)
		松尾 信 (教務部 次長)
		平塚 智文 (教務部 教務課 課長補佐：医療 IT 科 学科まとめ)
		秋山 貴志 (教務部 教務課 課長補佐：医療事務科 学科まとめ)
		知久 末衣 (教務部 教務課 課長補佐：新学科まとめ)※議事録担当
欠席者	学校関係者評価委員	真野 誠 様 (一般社団法人 保険医療福祉情報システム工業会)
資料	・当日説明用スライド資料	

<議論の要旨>

1. 教務部長挨拶（山上）

横浜医療情報専門学校は2012年の校名変更および医療IT科新設から10年が経過し、2024年4月よりスポーツ系学科を新設する。

スポーツ分野学科の新設に当たり、学校名を「横浜スポーツ&医療ウェルネス専門学校」に校名変更し、「ウェルネス」を学校テーマとする。

岩崎学園ウェルネスの定義を「心身を健康に保つことで、より自分らしく、輝く生き方をデザインしていく」とし、スポーツ系学科を3学科新設する。

【新学科】

- ・アスレティックトレーナー科（3年制）：いわゆる“AT”と呼ばれる職種に携わる人材を育成
- ・スポーツトレーナー科（2年制）

スポーツトレーナー・インストラクターコース：

スポーツトレーナーとしてフィットネスジムやスポーツクラブでトレーナー職を目指す

ビューティートレーナーコース：

身体の内側からキレイなるをテーマに、ヨガやピラティスのインストラクターを目指す

- ・スポーツビジネス・レジャー科（2年制）

無限の可能性を持つスポーツを題材に、プラスアルファの要素を掛け算して新しいビジネスを展開できる人材を育成

また、新学科設置に併せて、校舎のリニューアルを行う。ヨガやダンスのできるスタジオや最新の機材を導入したトレーニングルームを新設予定。今年度の完成を目指し、改修工事を進めている。

スポーツ分野と医療分野で、人や社会のウェルネスに寄り添う、新しい学校として来年4月より生まれ変わる。

2. 2022 年度総括（山上）

➤ 2022 年度の重点目標

- ① トップガン人材を育てよう：案件の獲得、外部コンテストへの挑戦
- ② 指導力を高めよう：授業の質と満足度の向上
- ③ 地域経済に貢献しよう：行政や地域の企業・病院・団体との産学連携

スポーツ業界との産学連携の開拓、ボランティア活動

① トップガン人材を育てよう

学内コンテストでは優秀な成績を収めることができたが、外部コンテストへの挑戦などは一部の学生
のみに留まり、具体的な成果を上げることができなかった。

② 指導力を高めよう

退学者や就職確定率などは目標値を達成。学生アンケートによる授業評価も良好ではあったが、資格
の合格率が低迷。対策講座の運用や日々の授業の中での学びが資格にどのように繋がるかを意識させる
工夫が不足。

③ 地域経済に貢献しよう

産学連携については、継続的に進めているがまだまだ案件が少ないと考えている。次年度はスポーツ
系新学科も立ち上がるため、連携先の開拓に力をいれていく。

➤ 2022 年度自己点検評価（6 月 26 日実施）

① 教育理念・目標

全項目において概ね良好であるが、アドミッションポリシーが公開されていなかったため、ホームペ
ージリニューアルに際し、掲載・公開した。

② 学校運営

DX 推進として、業務効率化などは学園本部主体で進めている。

本年度からは募集システムを刷新する予定。

【課題】

- ・新たな学習支援プラットフォーム（スタログ）を導入して 2 年目となり、授業準備や課題等のチ
ェックなどでは効率化が図られているが、学習形態や授業の特性により活用度に偏りが生じて
いる
- ・IT リテラシーの格差により、活用度が上がらないケースが見受けられる

【改善策】

- ・スタログを活用する仕組みやルール作りを行うとともに、非常勤等の IT リテラシー格差を勉強
会や相談会などを通し払拭し、ツールの利用頻度を上げていく

③ 教育活動

評価は概ね良好。

【課題】

オンラインの筆記試験などでは公平性を保つことが難しい状況が改善できていない

【改善策】

筆記試験は原則学内での実施とする

④ 学修成果

評価は概ね良好。

【課題】

- ・卒業生の就職後の動向調査が不十分である
- ・卒業生を通じた、産学連携などが積極的に行われていない

【改善策】

- ・在学時に利用していた Slack 等のコミュニケーションツールの卒業後継続利用を検討
- ・学園組織の校友会等を通して動向調査を計画的に行う
- ・本校独自の同窓会を組織し、卒業生同士の交流を深める場を提供する
- ・学園の中長期計画の中で「卒業生人材データベース」の構築を推進中であり、2027 年の完成を目標としている
- ・卒業後も 5 年間の就職支援を行う「就職支援保証制度」を継続運用中

⑤ 学生支援

評価は概ね良好。

【課題】

- ・コロナ禍で縮小された課外活動の推進を図ったが、クラブ・サークル活動を経験した学生がおらず、手探り状態での比較的小規模な活動が増えた

【改善策】

- ・取り組みを動画や資料として残し、後輩たちに伝授する情報の蓄積を推進する

⑥ 教育環境

評価は概ね良好。

【課題】

- ・備品・什器については、定期的に点検や更新を行っているが、不具合のあるものについて速やかな対応ができていないケースがある

【改善策】

- ・担当部門と連携し不具合や問題点を共有し速やかな対応を行い、学生が実際に心地よく授業を受けて楽しく学校生活を送れるような環境を担保していく

⑦ 学生の受け入れ募集

評価は概ね良好。

【課題】

- ・ X (旧 Twitter) や Instagram 等の SNS を通じた情報発信に取り組んでいるが、発信頻度が低い
- ・ オンデマンド型の学校説明動画や施設紹介動画などが無い

【改善策】

- ・ 学生会の活動と連動し、積極的に外部に情報発信を行っていく。既に始めているが、TikTok や YouTube の活用も進めていく。
- ・ 学校理解の促進として動画コンテンツを制作し、YouTube や学校 Web ページに掲載する

⑧ 教育内部質保障システム

評価は概ね良好。

【課題】

- ・ 教員の指導力向上のための研修受講が主に教員の裁量に任されており、組織的な課題解決のための研修としては不十分な面がある
- ・ 自己点検評価は行っているが、内部監査について組織的に行われていない

【改善策】

- ・ 「就職指導」「保護者対応」「困難を抱える学生対応」等、いくつかのテーマを設定し、現状抱える課題に近いものを研修として組織的に設定する
- ・ 内部監査についての講習会を受講するなどし、次年度実施に努める

⑨ 財務

財務については特別問題ない。

⑩ 社会貢献・地域貢献

【課題】

- ・ コロナ禍の影響でボランティア活動自体が減少しており、参加件数が低迷している
来年からのスポーツ学科も含め、積極的に参加していきたい

【改善策】

- ・ 社会情勢を鑑みながら、積極的にボランティア活動に取り組んでいく

⑪ 国際交流

近年、入学を希望する学生がおらず、留学生の在籍は 0 名となっているが、留学生の入学を想定した指導体制を考慮した組織づくりを検討する。

3. 2023 年度目標と取り組み

➤ 学園教職員が目指す教育サービス

“「楽しい」や「ワクワク」をつくり集いたくなる居場所にする”を共通のスローガンとして教育サービスを提供していくことを学園全体で統一し、全教職員で共有している。

2022 年度重点項目を継続していくが学校方針として、職員ひとり一人の意識・行動指針を下記の通りとする

➤ 学校方針（意識・行動指針）

- ・顧客の気持ちを理解、共感し、寄り添う姿勢を大切にする
- ・自身の業務が如何に進路選択者に結びついているのかを意識して業務に取り組む
- ・魅力的な学習環境を準備する
- ・学生の視野や選択肢を広げる指導を実践する
- ・学生や教員がマンネリ化せず、新しいことへの挑戦を忘れない

4. 意見交換

(二宮)

- 入学者数が衝撃。医療業界を含めた形で対策をしていく必要があるのではないか。産学連携という形で、学校と医療機関で連携を取って、高校生に対して医療業界の意識の拡大を図る取り組みが必要
- 留学生を受けるということは、日本語のレベルをどうクリアしていこうとしているか。労働者として雇うときに、日本語学校のN1取得、費用などはどう対応していくのかを教えてほしい
⇒留学生の規定はN2以上でやっている。入学要件に満たない学生をどうしていくかについては今後の課題(山上)
- 在校生サポーターは素晴らしい取り組み。オープンキャンパスはアルバイトなのか、無給なのか。病院でも日曜にマルシェなどのイベントを開催しているが、勤務扱いなのか無償なのかという問題が出ている。
⇒学生サポーターには薄謝だがお礼を渡している。日頃のお礼として学生サポーターを中心としたパーティーのようなものがないか検討している(山上)
- YouTubeなど個人でお金を稼ぐことが出来てしまう時代だが、学生の考えを育成するという意味で学生イベントは素晴らしい取り組み。興味がある人、ない人と二極化していないかという所もあるが、積極的に進めた方がよい

(中村)

- 経年変化も見える資料はよかった。頭をかかえるところとしては、外国人雇用。介護福祉士はわかるがこの学校の学科として、外国人採用のニーズはあるのか。例えば、医療事務やITの資格を外国人が取得することにニーズはあるのか
⇒現状考えにくい。なかなか難しいと思う。スポーツ業界の方がもしかしたらニーズがあるかも知れない。少子化の世の中で外国人を入れていかないとすべての職種で難しいのかもしれない。アジアから学生を連れてくる世の中になるのではないかと(二宮)
- サポーター、ボランティアをやってみたら楽しかったという時代ではない。前の学校では単位をあげた。ボランティア単位、サポーター単位、英検、漢検なども単位に換算する。専門学校でそれができるのかはわからないが、そういう風に考えないと難しい時代だと考える
⇒姉妹校では、ボランティアや学生サポーターを単位化している学校もある。やり方の見直しが必要だと感じる(松尾)
- 簡単に達成感が味わえる時代、スポーツ学科がスポーツ大会を一手に引き受けるとか。自分のやったイベント企画、アンケート、何点以上で合格、など目標を明確化するとよい。小学校では運動会で若い先生がテントを立てられない、ラインを引けない、など諸問題が発生している
- 発達について5歳児は3か月遅れている。親がコロナでずっと家にいたため、3歳児は発達が進んでいる。コロナ禍では学生主体で活動できた子がいない。高校でもやっておらず、品川女子学園などは文化祭を起業体験に変えた。株主を募り、出資してもらい文化祭に向けて起業→株主総会で締めくくる、などの工夫をして成功している

- ・中央協議審議会の答申で緊急答申が出たと思うが、教員の働き方が危機的。専門学校先生たちの働き方はどうだろうとこの評価を見ながらすごく考えた。男性の教員の育休を取りたくても代わりの教師がいない。先生がいなくなっている中、学園の先生はよくやっている。先生がやらなくていいことは外部に出してもいいのではないか。先生に余裕がないと、アイデアの枯渇、意欲低下になってしまう
- ・テストは学校でやった方がいいと思うが。中間・期末を廃止、テストは何回チャレンジしても良いという取り組みもみられる。チャレンジは3回まで、一番よい点数を採用するなど、できなかったことに着目することが大切

(神崎)

- ・入学者数の減少が気になった。オープンキャンパスに来る人、資料請求の件数も減っているのか
⇒大幅に減っている訳ではない。進学先を決める早期化の対応が遅れているのが要因のひとつと考えている。学校を選んでもらう策のひとつとして在校生サポーターに積極的に活躍してもらっている(松尾)
- ・医療事務という表現が、病院、クリニックしか見えない。機械化が進み、将来的に医療事務がなくなるとニュースなど、ネガティブ要素を払拭することが大切。また、一般企業が子育ての環境を整えてきているので、長く働けるなどの医療事務の良さが薄れてきてしまっているのではないか
- ・就職した10年後のイメージがつきづらいのではないか。時代の変化とともに保護者のニーズも変わってきている可能性も高い。5年、10年経った先輩のキャリア紹介などがあるとポジティブなイメージを持てるのではないか

(奈良谷)

- ・就職活動で先日内定が出た。医療IT科に娘が在籍しているが、医療事務の求人が多く、不安を感じるところがあった。卒業後3~5年位の先輩から、取得資格やその後の進路などを聞ける機会があるとよい
⇒学園のキャリア開発部が主体になって就職支援を行っている。また、情報系の姉妹校への求人も公開されており、本校の学生も利用できる仕組みになっている。そもそも院内SE職は求人自体が非常に少ないのが現状となっている。卒業生のキャリア紹介は今後やっていきたい(山上)
⇒前回、ご意見いただいた交通遅延による学校への連絡は電話からSlackに変更済み(山上)

委員の皆様から頂いた貴重なご意見を、本日の出席者以外の教務部メンバーにもフィードバックし、より良い学校運営を行うために活かしていきたい。本日はお忙しい中、有難うございました。(山上)

以上